



OSAKA SEMBA ROTARY CLUB JAPAN
WEEKLY REPORT

設立 昭和63年(1988)5月23日
事務所 〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-7-3 大丸北炭屋町ビル6階
TEL.(06)6244-1008 FAX.(06)6244-1010
WEB. http://sembarotary.club E-mail: semba@cocoa.ocn.ne.jp
例会 毎週月曜日・12時30分・ホテル日航大阪 Tel.(06)6244-1111
会長 宮原 彰 幹事 岩崎 寿英 会報広報委員長 中西 弘明

四つのテスト／言行はこれに照してから Ⅰ. 真実かどうか Ⅱ. みんなに公平か Ⅲ. 好意と友情を深めるか Ⅳ. みんなの為になるかどうか

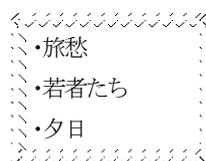
第1433回 例会 2021年(令和3年)11月1日

(ロータリー財団月間)

<p>本日のプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ロ-タリ-ソング 「君が代」「四つのテスト」 ○ 会長の時間 ○ 幹事報告 ○ 委員会報告 ○ ニコニコ箱報告 ○ 出席報告 ○ 11月お誕生月会員お祝い ○ 卓話 「私とゴルフのよもやま話」 井澤 武尚 会員 ○ 理事会 31階「カトレア」13:40~14:40 ○ Dグループ会合 「hotei.it 内、it.oven」18:30~ 	(本日のプログレス 原山 歩 副SAA)
---	----------------------

前回(10月18日)例会記録

◇プログレス 清水 清一 副SAA



1. 来客紹介 中井 崇 親睦委員

ゲスト:2名 地区外:0名 地区内:1名 合計:3名

ゲスト:大阪心斎橋ロータリークラブ 会長 牧野 浩之 様 幹事 近藤 佑介 様

2. 会長の時間 宮原 彰 会長



皆さん こんにちは。10月も第3週となりました。
ご承知の通りロータリークラブは月毎に滑動目標を定めています。
9月は「基本的教育と識字率向上月間」、10月は「地域社会の経済発展月間」、そして11月は「ロータリー財団月間」と続いて行きますが、本日は少し遡って9月の「基本的教育と識字率向上月間」についてお話いたします。

RIのシェカールメーター会長のメッセージを少し引用します。

識字率の向上は、貧困からの脱却、健康の増進、平和の推進と言う、私たちが目的とする活動に於いて非常に重要です。低所得国ですべての子供たちが基本的な読解力を習得すれば、世界的な貧困率が大幅に低減するのですと書かれ、世界のロータリアンの皆さんは出来ることを協力してくださいとありました。まだ読んでおられない方は是非読んでください。9月号では筑波大学の学長を務められ、現在は名誉教授の、ロータリアンの時期も、おありという門脇厚司さんが「社会力育てが人類社会を救う」と題して、書いておられます。

人間力・想像力・社会力はあまり聞いたことがないかと、思いながら書き出しは「今の日本の若者について考える」として、メディアでも口にするようになった。「8050(はちれいごうれい)問題」「7040問題」を挙げておられます。

「8050問題」「7040問題」とはどういう事なのか、つまり80代70代の親が50代・40代の子供の生活を支えなくてはならなくなってきたと言うのです。

その原因というか、背景に「引きこもり」を挙げています。「引きこもり」が若い時の一過性に終わらずに、そのままの状態推移して、今に至っていると指摘しています。このような親子が社会に孤立し、やがて親の収入が途絶えていくと、生活が立ち行かなくなる深刻なケースが目立ちはじめている。また「引きこもり」とまではいかないけれど、「パラサイトシングル」というのだそうですが、結婚をしない、基礎的な生活条件を親に依存も多いことが書かれておりました。

こしらも親がいなくなれば、たちまち深刻なケースに陥ることは「引きこもり」と同じでしょう。

著者の門脇さんは、自分が教育者としては、若い人の味方になって、何とか改善しなくてはならない、若い頃に基本的な教育を授けなくてはならないと、今日まで務めてきたつもりでした、と結んでおられます。

後半の見出しに、「持続と開発の矛盾」と大文字でありましたので目が向いました。

特に目についたところは「国連で採択された、SDGs(持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals)におけるS(持続)とG(開発)は矛盾するという事を意識する必要があります。持続可能な発展はありえないと私は考えています。逆に言えば、発展を求めると限り人類社会は継続しないという事です。ですから、発展にこだわるのはもうやめなければならぬ時代です。とあり、1973年の第一次オイルショックの年に国際的なシンクタンクであります、ローマクラブが出した「成長の限界」というショックな数字も引用しておられました。

ローマクラブのメンバーの教授の発言として、こんな表現が目につきました。このまま成長だけを求めているは駄目になることは、意思決定する政治家は皆わかっている。しかし有権者は自分の暮らしをもっとよくしたいと考えているので、政治家は選挙のため、経済成長をやめるとは一切言えない。その積み重ねが最後に滅びる競争をつづけている、とありました。最後の見出しのテーマ、今の若者に社会力をつけてもらって、人類社会を救うことと目指してほしいと申されております。現代社会の課題を救うのは、社会力であるという考え方に面白いと思いましたので、一寸紹介させて頂きました。有難うございました。

3. 大阪心齋橋ロータリークラブご挨拶



大阪心齋橋ロータリークラブ 会長 牧野浩之様、幹事 近藤 佑介様よりご挨拶を頂きました。

4. 委員会報告

◎ 国際奉仕委員会 吉本 力 委員長

10月4日(月)の理事会で、八尾ロータリークラブとのコラボでフィリピンへの奉仕活動を進めることについてご承認をいただきました。皆様のご理解に深く感謝いたします。

予算については、今後検討し、11月の理事会でご審議していただく予定です。奉仕活動の内容としては、現地からラーニングセンターの建設が提案されていますが、これも11月の理事会でご審議いただく予定です。

ご意見、ご提案等がございましたら、事前にご連絡いただければ幸いです。

引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りたく存じます。

◎ 地区社会奉仕委員会 澤田 宗久 委員

10月19日(火)大阪梅田 RC において、社会奉仕フォーラムが開催されます。

そこで「奉仕とは」のテーマで卓話を行います。10月23日(土)13時より、YMCA で社会奉仕委員長会議が開催され「コロナ禍における奉仕活動」と題して卓話を行います。

また、卓話銀行から依頼があり12月7日(火)大阪南 RC において「国際奉仕活動について卓話を行います。

5. お知らせ Dグループ 林 拓 サブリーダー

長らく延期しておりました小グループ活動を親睦会という形で開催したいと思います。日時は11月1日月曜日18:30、場所は藤井会員のホテルイト内、it.oven にて開催します。家庭でもお手軽ワインをテーマにワイン持ち込みで食事をさせていただきます。できるだけ全員参加で宜しくお願い致します。

6. ご案内 片岡 清夫 会員

経済ジャーナリストの財部誠一(タカラベ セイイチ)氏が発刊している情報誌のご案内です。

今回は「止まらない眞子さまご結婚への憂慮」と「財務次官がバラマキ合戦の政治を牽制」のご紹介と

「2030年に勝ち残る日本企業」山本康正(著者)PHP ビジネス新書という本のご紹介です。

7. ニコニコ報告 岡本 真太郎 親睦委員

大阪心齋橋 RC 牧野浩之様……お邪魔してきました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

岩崎 会員……本日心齋橋ロータリークラブから牧野会長、近藤幹事が来られます。ありがとうございます。

澤田 会員……いつも社会奉仕にご協力いただきありがとうございます。明日19日(火)に大阪梅田RCにおいて

社会奉仕委員会フォーラムに行きまして参ります。23日には地区社会奉仕委員会委員長会議が開催され、

その中で卓話を行います。宜しくお願いいたします。

中井、新川、清水、岡本(真)、小山、中西、竹内、沖、俣野、原山、藤井、宮原、片岡、北野、塩尻、井澤、山川、

天野、坂本、中嶋、中村、小島、吉本、松谷、伊藤、大嶋、甚田、岡野、林、洪、

各会員……季節の変わり目 体調管理に気をつけて頑張りましょう!

8. 出席報告 清水 清一 副SAA

会員総数 38名 出席率計算会員数 38名 出席会員数 34名 出席率 89%

第1430回(9月27日) 修正出席率 97%

9. 委員会卓話 米山奨学委員会 塩尻 明夫 委員長



今年度米山委員長の塩尻です。

本日は牧野様、近藤様いらっしやいませ。

本題の前に、演台に掲示しているRYLAについてご説明します。

Rotary Youth Leadership Awardsの略で、若いリーダーを育てるイベントですが、今回は画期的な点があります。

それはロータリアンでなくても視聴可能ということです。皆さんももちろんご覧頂くとともに、ロータリーとはこういうことをしているのだ、と見て頂くことで、増強につなげてもらえればと思います。

さて、今月は米山月間です。

先輩会員の皆様は米山奨学事業の意義や様々な活動を十分にご承知かとは思いますが、新しい会員の皆さんにはまだまだ「一体なんだそれは？」だと思います。

私は本年度米山奨学委員長を拝命しておりますので、その歴史や意義について簡単に御説明致します。

1. 米山奨学事業とは

さて、まずは米山奨学事業について、大変基本的な所からで恐縮ですがお話させて頂きたいと思います。ロータリー入門書によりますと、米山奨学事業については以下のような記述があります。

「これははじめ東京クラブのプロジェクトとして発足したもので、日本ロータリーの創始者米山梅吉翁の逝去にあたり、その偉業を記念したものです」

「奨学金授与の対象は主として東南アジアからの私費留学生で、現在日本の大学に在学している学生に学資の補助を行うものです」

このような経緯で発足した米山記念奨学会ですが、現在は国際ロータリーとは直接の関係がない別法人となっています。1967年には文部省の許可を得て財団法人となり現在に至っております。米山奨学生の採用数は、年2020学年度で883人。奨学団体としては、事業規模・採用数とも、日本国内では民間最大です。

この奨学生数を国別にみると、上位は中国(341名)、ベトナム(121名)、韓国(73名)となっています。

このうち中国は、米国をはじめ世界各国から外交や人権問題で批判を集めており、また領土問題でも日本に対する圧力を強くしています。また韓国においても未だ強い反日感情が否定できません。

また、米山奨学金の対象になっている主な国においては国民所得や生活水準が向上していますし、特に来日出来るような学生は比較的裕福な家に生まれた子供達が多くなってきています。

会員の皆様には、このような状況で奨学金を出すことが本当に必要なかという疑問を呈する方も多くおられます。

2. 米山奨学事業の本質

しかしながら、米山記念奨学会のホームページには、目的として以下の記載があります。

「将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。」

国際社会において活躍しておられる日本人もたくさんおられますが、ロータリークラブを通じて日本や日本人、日本文化をよく識り、愛着をもってくれる日本人以外の人間を少しでも増やすことが、国際社会における日本のプレゼンスを高める非常に有効な手段の一つであるという点は間違い無いと思います。また、この事業が国際ロータリーにおいても日本独自のものであるという点はさらに重要です。政府とも経済界とも違う団体が、長期間にわたって国益を計る活動を行えるという視点から考えると、その役割は世界的にも非常に大切であると言うことも出来ます。

また、奨学生には「優秀性」も求められます。優秀とは「学業」に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、「異文化理解」

「コミュニケーション能力」への意欲や能力に優れている点が含まれます。このようなことを考えますと、過年度の奨学生についても「終わったらさようなら」ではなく、やはり日本というものを理解し、日本で一生懸命勉強したということ、本人だけではなく後の世代にもきちんと伝えてもらうということ、これこそが米山奨学事業の本質ではないでしょうか。

そのためには、押しつけではなく、息の長い、子供や孫の代まで続く良い関係を続けていくことが大切であるように思います。

3. 米山奨学生やその卒業生との付き合い方

今年度の郭鑫君をはじめ、これまでたくさんの方が我々のクラブに来て下さいました。

しかし、奨学生とコミュニケーションをとるのがカウンセラーや米山委員長に限られ、その他の方は奨学金授与の際のスピーチを聞くくらい、という問題はこれまであまり変わっていません。

前に述べました通り、米山奨学生の皆さんは本当に全てに優れた優秀な学生であり、今後我が国と世界との懸け橋となる可能性を秘めた方です。

このような方と、2年間という長い期間お付き合いができるというのは大変すばらしいことです。

また、この制度が真価を発揮するのは、彼らが世界に飛び出ていく終了後です。

今回カウンセラーをしておられる清水会員は、長きにわたって地区米山委員を務められ、これらのことを熟知されている「米山マスター」です。

その知識と経験を活かし、奨学生や卒業生とのコミュニケーションをこれまで以上に深く出来るように頑張ってください。

出来るだけ他のメンバーの皆さんも、奨学生の皆さんやその卒業生と、できるだけ深いコミュニケーションを気楽に取って頂くようお願い致します。

4. 日本特有の“米山月間”(10月)について

このような経緯で国際ロータリーとは別に発足した米山奨学会ですから、もちろん行事も日本独自のものになっています。まず、冒頭に申し上げた通り、毎年10月を「米山月間」と定め、クラブはこの月に米山奨学事業の意義を深く認識し、寄付金を募る活動をするようになっていきます。そのために米山奨学生や地区役員・委員の卓話を聞き、更に奨学会から提供される資料をもとにクラブ・フォーラムを開催したりすることが推奨されています。

実は当初、米山月間ではなく米山梅吉翁の命日(4月28日)に因んで、4月に“米山週間”を設けていました。しかし、10月は米山奨学会の理事会・評議員会(8月末)の直後で、事業報告書など、最新の資料を提供できる時期にあたるから、という理由で、1983年から10月を“米山月間”としたそうです。

5. 税制について

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、当時の文部大臣より1978年10月2日付で、所得税法および法人税法に掲げる特定公益増進法人に該当する旨の認可を与えられており、当会への寄付金に対して税制上の優遇措置を受けることができます。

1) 個人所得税

個人の方が寄付された場合、税額控除と所得控除の2つが選択できます。

①(税額控除)年間寄付金総額-2千円(年間所得の40%まで)掛ける40%が税額から控除される ※但し所得税額の25%が限度

②(所得控除)年間寄付金総額-2千円(年間所得の40%まで)かける所得税率が税額から控除される

2) 個人住民税

条例によって異なりますが、個人所得税と同様の控除を受けることが可能です。

3) 法人税

法人が寄付をされた場合、一般の寄附金(資本金や所得金額に応じて損金算入限度額があります)とは別枠で損金の額に算入されます。

4) 相続税

相続財産を寄付すべき旨の遺言をされた場合や、相続人が寄付(相続税の申告期限内に限る)した場合は、寄付財産が相続財産から控除されます。

☆☆☆ 大阪市立開平小学校6年生キャリア教育体験学習について ☆☆☆
令和3年10月8日(金)

【受入企業:共栄社化学(株) (株)コジマ 澤田歯科 栄和産業(株) (株)丸十コーポレーション 東エンタープライズ(株)】

青少年奉仕委員会、洪理恵です。委員会報告をいたします。

10月8日に予定しておりました開平小学校6年生による職業体験が緊急事態宣言も明け無事に実施されました。通常は12月に5年生が職業体験予定となっておりますが昨年はコロナ渦の影響で実現が叶いませんでした。その為10月に6年生による職場体験と相成りました。

各ご協力会員企業さまには、趣向を凝らした体験内容をご準備いただき、児童の皆さんにとって素晴らしい職業経験になったことだと思います。

今回ご協力いただいたのは、片岡会員、小島会員、澤田会員、清水会員、林会員、藤井会員です。

ご協力いただいた各会員の皆さま、社員スタッフの皆さまに厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。

12月には開平小学校5年生による職場体験を予定しております。

是非ご協力をよろしく願いいたします。

青少年奉仕委員長 洪 理恵



体験学習風景 <(株)丸十コーポレーション>



体験学習風景 <東ビルエンタープライズ(株)>



☆次回11月8日(月)例会予定

・卓話:新川会員